

脂肪肝 (NAFLD/MAFLD/SLD) と NASH

脂肪肝 (fatty liver) は近年、糖尿病や脂質異常症、高血圧、慢性腎臓病 (CKD) などと並ぶ代謝性疾患の一つと位置づけられている。「肝臓の生活習慣病」とも言われる脂肪肝は、他の代謝性疾患との重なりも多く、メタボリックシンドロームとの関連も強い。脂肪肝は、放置しても差し支えないとされていた時代もあったが、現在では、炎症や線維化を経て肝硬変や肝がんにつながり得るだけでなく、心血管疾患のリスクにもなることが判明し、治療介入の対象である。他の生活習慣病と同様、肥満と合併しやすいが、必ずしも肥満を伴わない脂肪肝も多いことに留意が必要である。

当初、アルコール性肝障害と区別するために、非アルコール性脂肪性肝疾患 (nonalcoholic fatty liver disease: NAFLD) ならびに、さらに進行し炎症や線維化が顕在化してくる段階の非アルコール性脂肪性肝炎 (nonalcoholic steatohepatitis: NASH) と命名、定義された。しかしその後、松林論文で詳説されているように、Metabolic dysfunction-associated fatty liver disease (MAFLD) などの実態に則した再分類定義も現れ、さらに最近、差別用語でもある“fatty”を避けた Steatotic liver disease (SLD) などに名称変更されつつある。

脂肪肝は、すでに多種の治療薬が存在する高血圧や糖尿病などと異なり、特異的治療薬が比較的少ない疾患である。一方、肥満改善と並行して脂肪肝もよく改善することからもわかるように、食事を筆頭とする生活習慣との関連が強い。したがって、栄養療法と共に機能性食品の活躍が期待される分野でもある。本特集では、脂肪肝の分類、原因、腸内細菌を含む病態、栄養療法、現時点での機能性食品のヒトのエビデンスなどについて、造詣の深い先生方に解説いただいた。本分野における新たな食品機能の解明や新たな機能性食品開発に繋がれば望外の喜びである。

曾根博仁

新潟大学大学院医歯学総合研究科
血液・内分泌・代謝内科学分野